

北海道高等学校文化連盟
第48回全道高等学校放送発表大会兼第71回NHK杯全国高校放送コンテスト北海道大会
開 催 要 項

1. **主 催** 北海道高等学校文化連盟 NHK札幌放送局
2. **後 援** 北海道教育委員会 北海道高等学校長協会
日本放送作家協会北海道支部
3. **主 管** 北海道高等学校文化連盟放送専門部 北海道高等学校文化連盟石狩支部
4. **当 番 校** 北海道札幌北高等学校
〒001-0025 札幌市北区北25条西11丁目 TEL 011-736-3191 FAX 011-736-3193
5. **期 日** 令和6年6月11日（火）～14日（金）
6月11日（火） コンテスト運営委員会・第一回専門委員会・総合受付・公開抽選会・開会式
6月12日（水） アナウンス部門（予選・決勝）・朗読部門（予選・決勝）・創作ラジオドラマ部門・テレビドキュメント部門・講評
6月13日（木） アナウンス・朗読部門結果発表・ラジオドキュメント部門・創作テレビドラマ部門・研究発表部門・講評
6月14日（金） 結果発表・表彰式・NHK校内放送研究集会・閉会式・全国大会参加手続き
6. **会 場** 千歳市民文化センター（北ガス文化ホール）
〒066-0036 千歳市北栄2丁目2番11号 TEL 0123-26-1151
7. **参加資格**
 - (1) 令和6年度北海道高等学校文化連盟に加盟している高等学校および中等教育学校の後期課程に在学中の生徒およびその作品。
 - (2) 特例として、上記（1）に定める生徒以外で、北海道高等学校文化連盟別途規定による大会参加資格を満たした生徒の大会参加を認める。
 - (3) 各部門への参加は、道内各地区高文連の推薦による。
 - (4) 地区大会後の原稿・作品の内容変更（手直し）も可とする。（但し作品名は申込書通りとする）
 - (5) アナウンス部門・朗読部門は、1名1部門とする。
 - (6) ドキュメント部門・創作ドラマ部門は1校につき、各部門1作品に限る。
（1部門に1校から2作品以上出品できない）
 - (7) 番組制作の各部門は、高校生の創作に限る。
8. **参加に関わる禁止事項**
 - (1) 他のコンテスト・コンクール等に参加した作品及びそれを改変・改編した作品の参加は認めない。
 - (2) 上記に関わって判断に迷う場合は、北海道高文連放送専門委員長に問い合わせること。
9. **参加作品の著作権について**
 - (1) 参加作品の著作権は、制作者（応募した学校）に帰属する。
 - (2) 当コンテストに応募した段階で、主催者が行う放送（NコンWEB等での映像配信サービスを含む）、イベントでの上映、ホームページ・印刷物への掲載などについて、応募作品の利用（業務上の必要により編集、切除その他の改変を行うことも可）を許諾したものとする。
 - (3) 当コンテスト終了後、応募作品を他に利用する際は、利用に関わる一切の責任は制作者が負うことになり、主催者は責任を負わない。ただし、全国大会に参加する作品は全国大会終了時まで他の利用ができないので注意すること。
10. **マスコミ報道に関する注意事項**

高校放送局の活動が、新聞・テレビ等のマスメディアで報道されることは、高校生の放送活動に対する

社会の理解や関心を高めることにつながり、校内放送活動の発展に寄与するものである。しかし、一方で、大会で審査を受ける前の作品がテレビやラジオで放送され、多くの人の目に触れることは、大会会場での新鮮な感動を薄れさせ、審査に影響を与えてしまうことも否めない。このことをふまえ、参加校は以下のことに留意する。

- (1) 地区大会前
 - a. 地区大会前にテレビ・ラジオ等で作品の一部または全部が放送されることは差し控える。
- (2) 地区大会後、全道大会前
 - a. 地区大会後に、ローカルニュースなどで作品の一部または全部が報道されることはかまわない。この場合、該当校は、北海道高文連放送専門委員長に報告することとする。
 - b. 全道大会前に、全道向けのテレビ・ラジオ等で作品の一部または全部が放送されることは差し控える。
- (3) 全道大会後、全国大会前
 - a. 全道大会後に、全道向けのテレビ・ラジオ等で作品の一部または全部が放送されることはかまわない。この場合、該当校は、北海道高文連放送専門委員長に報告することとする。
- (4) インターネットサイトへの掲載について
 - a. 各地区や参加校・道内のマスメディアや道内のローカルニュースサイトなどが、地区大会・全道大会の結果や順位を掲載することはかまわない。ただし、学校名・氏名などを掲載する場合は、当該校や当該生徒の許諾を得て行うこと。また、全道大会終了までは、作品のタイトルがサイトに掲載されることは避けること。
 - b. 全国大会終了まで、参加作品そのもののネット配信は、作品の一部であっても差し控える。全国大会後であっても、ネット配信する際は、取材先や著作権者への許諾を必ず得る。
 - c. **北海道高等学校文化連盟放送専門部は、本大会の参加者の学校名・氏名・作品名および入賞順位、大会中の写真や応募作品などをサイトへの掲載のために利用できるものとする。**
- (5) 報道機関・関係機関への情報提供について
 - a. 北海道高等学校文化連盟放送専門部は、報道機関・高文連などの関係機関に本大会の参加者の学校名・氏名・作品名および入賞順位、大会中の写真などの情報を提供する。

11. 参加人数・参加本数

アナウンス部門・朗読部門				ラジオドキュメント部門・創作ラジオドラマ部門 テレビドキュメント部門・創作テレビドラマ部門		ラジオドキュメント部門 奨励枠
地区予選部門参加人数	人数	地区予選部門参加人数	人数	地区予選部門参加校数	本数	
151名以上	19人	61名～70名	10人	28校 以上	10本	各地区の判断で最大 1本まで加算できる。 推薦に当たっては各支部で審議する
141名～150名	18人	51名～60名	9人	24校～27校	9本	
131名～140名	17人	41名～50名	8人	19校～23校	8本	
121名～130名	16人	31名～40名	7人	15校～18校	7本	
111名～120名	15人	21名～30名	6人	11校～14校	6本	
101名～110名	14人	16名～20名	5人	8校～10校	5本	
91名～100名	13人	11名～15名	4人	5校～7校	4本	
81名～90名	12人	10名 以下	3人	4校 以下	3本	
71名～80名	11人					

※研究発表部門は地区推薦とし、特に参加数の制限を設けない。

※全道大会の当番校は地区の参加数・順位に関係なく各部門に1作品または1名が参加できる。

ただし、当番校の作品または生徒は必ず地区予選に参加すること。また、地区予選において当番校が全道大会に参加できる順位に入った場合は他の繰上げ参加はできない。

12. 参加費

- | | | |
|-------------------------------|--------|--------|
| (1) アナウンス部門 | 1名につき | 5,150円 |
| (2) 朗読部門 | 1名につき | 5,150円 |
| (3) 番組部門（ラジオドキュメント・テレビドキュメント） | 1作品につき | 5,150円 |
| (4) 創作ドラマ部門（ラジオ・テレビ） | 1作品につき | 5,150円 |
| (5) 研究発表部門 | 1校につき | 5,150円 |

13. 参加申込み

(1) 参加申込書

各地区の高文連よりの推薦、参加申込みは各地区ごとにまとめ、**5月28日(火)必着**とし、支部代表専門委員に配布する参加申込書Excelデータを、大会事務局のメールアドレスに送信する。

地区大会が締切日以降に行われる場合は、事前に事務局に連絡すること。

(2) 参加料

支部代表専門委員は地区ごとにまとめ、次の口座に振り込む。**5月28日(火)必着**とする。

※口座については、後日連絡します。

(3) 原稿(アナウンス・朗読)・番組進行表(ラジオ・テレビ・研究発表)・研究発表要旨

参加校が、大会第1日目に要項で指示された部数を発表順の抽選後に提出すること。

(4) 各部門のデータ

ラジオ番組部門の音声データ、テレビ番組部門の映像データ、研究発表部門のパワーポイントデータ
6月4日(火)17時までに指定の方法で提出すること。なお、提出後のデータの変更はできません。

(提出方法については別紙で用意します)

(5) 地区大会プログラム

各支部代表専門委員は**地区大会プログラム1部を大会第1日目の第1回専門委員会に持参すること。**

14. 宿泊・弁当申込み

宿泊・弁当の斡旋はしません。

15. 大会事務局(当番校) 北海道札幌北高等学校

〒011-0025 札幌市北区北25条西11丁目

TEL 011-736-3191 FAX 011-736-3193

*当番校担当者 佐藤良成

北海道高等学校文化連盟第48回全道高等学校放送発表大会 実施要領

第71回 NHK杯全国高校放送コンテスト北海道大会

1. 目 的

現代に生きる高校生の豊かな人間性の育成と、未来への展望をもつ人間としての成長をめざし、校内放送活動をメディアリテラシーの実践として位置づけ、情報発信としての放送活動の発展をはかる。

2. ね ら い

- (1) 美しく豊かな日本語を大切にする心情を育て、あわせて話す力、表現する力を高める。
- (2) 情報発信者としての自覚を高め、あわせて創造性を育てる。
- (3) 社会との関わりに目を向け、放送の果たす役割を学ぶ。
- (4) 人間尊重の心を培い、国際理解を深める放送の働きを確かめる。
- (5) 学園生活の中にうるおいを育て、心のふれあいの場をつくる。

3. 研究主題（統一テーマ） 「私たち高校生と放送」

高校生の連帯、先生方とのきずな、地域や社会への結びつきを、日常生活の中で考え、主体的に放送活動に展開すること。

4. 日 程

第1日 6月11日 (火)	
10:00～10:30	コンテスト運営委員会
13:00～13:30	総合受付
13:30～17:00	公開抽選・開会式・オリエンテーション
17:00～	発表順公表
13:00～15:30	第1回専門委員会
第2日 6月12日 (水)	
9:15～12:30	アナウンス部門予選審査
9:15～13:50	朗読部門予選審査
15:00～18:30	アナウンス・朗読部門決勝審査
9:30～18:30	創作ラジオドラマ部門審査・講評
9:30～17:30	テレビドキュメント部門審査・講評
第3日 6月13日 (木)	
9:15～ 9:30	アナウンス・朗読部門講評、結果発表
9:30～16:30	アナウンス・朗読部門全国大会出場者合同練習
9:30～17:00	ラジオドキュメント部門審査・講評
9:30～17:00	創作テレビドラマ部門審査・講評
9:30～17:00	研究発表部門・講評
第4日 6月14日 (金)	
9:15～10:00	結果発表・表彰式
10:00～12:30	NHK校内放送研究集会・閉会式
10:00～12:30	全国大会参加手続

※アナウンス・朗読部門については、予選・決勝方式で行う。

以上は大まかな日程であって、参加数等によって時間や会場の変更はありうる。

※1日目の総合受付に間に合わない学校については、事前に放送専門部事務局まで連絡すること。

5. 審査員（予定）

▽アナウンス部門

NHKアナウンサー 1名

専門家 1名

各地区代表審査員 5名

▽朗読部門

NHKアナウンサー 1名

専門家 1名

各地区代表審査員 5名

▽番組部門

NHKディレクター 1名

放送作家 1名

各地区代表審査員 5名

▽研究発表部門

高等学校長協会 1名

各地区代表審査員 4名

6. 表彰

[表彰数（各部門）]

※入賞のみ全国大会に推薦

部門	アナウンス	朗読	ラジオドキュメント	テレビドキュメント	創作ラジオドラマ	創作テレビドラマ	研究発表
表彰数	20人 (入賞12 奨励賞8)	20人 (入賞12 奨励賞8)	10本 (入賞8 奨励賞2)	10本 (入賞8 奨励賞2)	6本 (入賞4 奨励賞2)	6本 (入賞4 奨励賞2)	6本 (入賞4 奨励賞2)

入賞は賞状と楯、奨励賞は賞状

▽各部門に最優秀として、下記の賞を贈る。

アナウンス部門・・・北海道高等学校文化連盟放送専門部長賞

朗読部門・・・北海道高等学校文化連盟放送専門部長賞

ラジオドキュメント部門・・・北海道高等学校文化連盟放送専門部長賞

テレビドキュメント部門・・・北海道高等学校文化連盟放送専門部長賞

創作ラジオドラマ部門・・・日本放送作家協会北海道支部長賞

創作テレビドラマ部門・・・日本放送作家協会北海道支部長賞

研究発表部門・・・北海道高等学校文化連盟放送専門部長賞

▽総合賞として、下記の賞を贈る。

最優秀賞・・・・・・・・・・NHK杯と賞状

優秀賞（2位・3位）・・・・・・賞状と楯

[総合賞得点基準]

	表彰数	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
アナウンス	20	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
朗読	20	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
ラジオドキュメント	10	20	18	16	14	12	10	8	6	4	2
テレビドキュメント	10	20	18	16	14	12	10	8	6	4	2
創作ラジオドラマ	6	20	18	16	14	12	10	※アナウンス・朗読の11位から20位は10位と同じ点とする。			
創作テレビドラマ	6	20	18	16	14	12	10				
研究発表	6	20	18	16	14	12	10				

7. 北海道代表（各部門）

上記の表彰校から下記の人（本）数を入賞順位にしたがい北海道代表としてNHK杯全国高校放送コンテスト全国大会に推薦する。

[全国大会推薦人（本）数]

部門	アナウンス	朗読	ラジオドキュメント	テレビドキュメント	創作ラジオドラマ	創作テレビドラマ	研究発表
全国推薦	12人	12人	8本	8本	4本	4本	4本

8. その他

- (1) 要項・要領についての問い合わせは、放送専門部事務局へ。
(札幌平岸高校 足達圭二 TEL 011-812-2010 FAX 011-812-2049 メール zendohosojimu@gmail.com)
- (2) 大会の運営についての問い合わせは、大会事務局（当番校）へ。
(札幌北高校 佐藤良成 TEL 011-736-3191 FAX 011-736-3193)
- (3) 全国大会の要項と原稿・番組進行表の書式・各種書類・テストパターンは下記の全国大会のサイトからダウンロードして下さい。**※各書類は、必ず今年度の様式を使ってください。**
https://hosokyoiku.jp/ncon_h/info/
- (4) 大会に関する各種情報は、下記の「北海道高等学校文化連盟放送専門部」のサイトに随時掲載します。
<https://zendo-hoso.net/>

今大会の注意事項・変更点

1. ラジオ番組の制作に当たって

ラジオドキュメント部門・ラジオドラマ部門の番組制作に当たっては、審査における作品再生時の不具合を防ぐため、**作品の前後に2秒程度のブランク（無音）を入れてください。**

2. 「研究発表」の変更点について

- (1) 発表用 PowerPoint のデータ容量制限が 30MB から 200MB に変更になります。
- (2) 発表時に利用する音声データや映像データはすべて PowerPoint に挿入してください。
アニメーション機能は禁止ですが、データを挿入する際、場合によってはアニメーション機能が必要となるようです。この場合に限り、PowerPoint のアニメーション機能を認めます。
(それ以外は禁止です)

3. インターネット上の素材について

番組制作で、正式に契約したインターネット上の音楽・効果音素材は使用可能です。また、著作権者の指示によりダウンロードした素材も使用可能とします。P16 の「番組制作について」及び「番組部門制作関連資料」(https://hosokyoiku.jp/ncom_h/)で確認してください。

※ 研究発表の番組進行表の記入について

北海道大会では「制作物など展示を 希望する・希望しない」の部分への記入は必要ありません。

※ 生成 AI の使用について、現状では NHK でもガイドラインを策定できていないため、コンテストでの使用はしない旨の指示が出ています。

9. 各部門の参加規定・審査基準

【1】アナウンス部門

1. アナウンス部門規定

- (1) アナウンスする内容は自校の校内放送に使用するものとし、原稿を生徒が自作したものに限定する。
- (2) アナウンスのはじめに、番号と氏名を読むこととし(学校名は読まない)、時間はそれらを含め、**1分10秒以上1分30秒以内**とする。
- (3) 事前に提出するアナウンス原稿は、ダウンロードした様式1に従い、**仕上がりA5判で4部**(コピー可)を大会第1日目の公開抽選の際に提出する。原稿の様式は、必ず全国大会のWebサイトより**第71回大会のもの**をダウンロードする。
- (4) 取材等を行う場合、大会で発表することについて必ず許諾を得るなどして人権に配慮する(文書の添付は不要。文書で許諾を受ける必要がある場合は、様式2-5を使用)著作物使用の許諾については、原稿末尾に文書添付等の処理をする。

2. アナウンス部門予選

- (1) 出場者は、受付で提出した自作原稿をアナウンスする。
- (2) 審査は、専門家2名(うち1名はNHKアナウンサー)と各地区代表審査員5名で行う。
- (3) 予選の上位20名を決勝進出者とする。

3. アナウンス審査基準

- (1) 研究主題「私たち高校生と放送」のテーマに沿った内容となっており、自校の校内放送に使用する内容であること。
- (2) 審査の視点
 - a. 内容
 - (ア) 素材の選び方は適切であるか。
 - (イ) 文章表現は適切であるか。
 - b. アナウンスの技術
 - (ア) 自然な発声で聞き手に伝わるようにアナウンスしているか。
 - ・発声 ・発音 ・マイクの使い方
 - (イ) 正しく意味を伝える表現ができていないか。
 - ・内容把握・イントネーション・言葉の立て方(プロミネンス)・アクセント
 - (ウ) 間(ポーズ)は適切か。
 - ・テンポ・ポーズ
 - (3) 点数は100点法の1点刻みとし、a. b.の項に留意して総合的に採点する。
 - (4) 各地区代表・高文連審査員5名の審査点のうち、最高点と最低点を除き、残り3名の審査点と専門家2名の審査点を合計したもので順位を決定する。

4. アナウンス部門決勝

- (1) 出場者は、課題原稿をアナウンスする。課題

原稿は、大会第1日目の総合受付で渡されるプログラムに掲載されている。

- (2) 審査は専門家4名(うち2名はNHKアナウンサー)と各地区代表審査員4名で行う。
- (3) 審査基準は、予選審査基準のb.に準ずる。
- (4) 点数は100点法の1点刻みとし、最高点と最低点を除いた残り6名の審査点の合計点に予選の得点を加えたもので順位を決定する。
- (5) 決勝の上位12名を北海道代表として、全国大会に推薦する。

5. アナウンス部門規定違反

- (1) ±1秒を越える時間規定違反については、各審査員の点数から5点ずつ減点する。
- (2) テーマに沿っていない内容や、校内放送に適さない原稿、著作権処理の不備等については、大会中に大会本部で確認し、出場者に直接指導を行う場合がある。この指導を受けたこと自体は、全道大会での点数には影響しないものとする。
- (3) その他の規定違反等への対処については、大会本部で審議し決定する。

6. アナウンス部門全国大会参加手続き

- (1) 全国大会参加料1名につき**5,000円**は、全道大会第4日目の全国大会参加手続き時に納入する。
- (2) 手続きの詳細については、全道大会第4日目の全国大会参加手続きの際に連絡する。

【2】朗読部門

1. 朗読部門参加規定

- (1) 次の指定作品の中から1編を選び、自分の表現したい部分を抽出して朗読する。作品の改変は認めない。**※抽出は文頭から開始し、文末で終了すること。一文途中の開始や終了は改変とみなす。本文中の()内も読むこと。(読み仮名・注を除く)**

朗読指定作品

- 1) 「泥流地帯」
三浦綾子 著(新潮文庫)
- 2) 「小さな幸せ46こ」
よしもとばなな 著(中公文庫)
- 3) 「レキシントンの幽霊」
村上春樹 著(文春文庫)
- 4) 「チップス先生、さようなら」
ジェイムズ・ヒルトン 著
白石 朗 訳(新潮文庫)
- 5) 「大鏡」(出版社は問わない)

注意 電子書籍不可。1)は平成21年56刷改版以降のものに限る。2)、3)は収録作品のいずれを選んでも良い。4)は他の出版社、翻訳者のものは不可。5)は現代語訳不可。

- 2)の作者の現在の筆名は「吉本ばなな」である。

- (2) 朗読のはじめに、番号、氏名、作者名（訳者名は読まない）、作品名を読むこととし(学校名は読まない)、時間はそれらを含め**1分30秒以上2分以内**とする。**※指定作品3）は選定した収録作品の各タイトルを作品名として読むこと。5）については作品名のみで良い。まえがき、あとがきからの抽出はしないこと。**
- (3) 事前に提出する朗読原稿は、様式1に従い、**仕上がりA5判で4部**（コピー可）を大会第1日目の公開抽選の際に提出する。**1）～4）については、原稿表紙に抽出部分の開始ページを記入する。**原稿の様式は、必ず全国大会のWebサイトより**第71回大会のもの**をダウンロードする。

2. 朗読部門予選

- (1) 出場者は、受付で提出した指定作品から抽出した原稿を朗読する。
- (2) 審査は専門家2名（うち1名はNHKアナウンサー）と各地区代表審査員5名で行う。
- (3) 予選の上位20名を決勝進出者とする。

3. 朗読部門審査基準

- (1) 審査の視点
- a. 内容
- (ア) 作品の選定は適当であるか。
- (イ) 抽出部分は適切か。
- ※作品中にある差別的な表現などについては、文芸上の表現であり、そこを抽出したことで減点等の措置はしない。**
- b. 朗読の技術
- (ア) 内容表現上、声の出し方や言葉の運びが自然で適切か。
- ・発声・発音・マイクの使い方
- (イ) 正しく意味を伝える表現ができているか。
- ・内容把握・イントネーション・言葉の立て方（プロミネンス）・アクセント
- (ウ) 間（ポーズ）は適切か
- ・テンポ・ポーズ
- (2) 点数は100点法の1点刻みとし、aとbの項に留意して総合的に採点する。
- (3) 各地区代表・高文連審査員5名の審査点のうち、最高点と最低点を除き、残り3名の審査点と専門家2名の審査点を合計したもので順位を決定する。

4. 朗読部門決勝

- (1) 出場者は、課題原稿を朗読する。課題原稿は、大会第1日目の総合受付で渡されるプログラムに掲載されている。
- (2) 審査は専門家4名（うち2名はNHKアナウンサー）と各地区代表審査員4名で行う。
- (3) 審査基準は、予選審査基準のb. に準ずる。
- (4) 点数は100点法の1点刻みとし、最高点と最低点を除いた残り6名の審査点の合計点に予選の得点を加えたもので順位を決定する。

- (5) 決勝の上位12名を北海道代表として、全国大会に推薦する。

5. 朗読部門規定違反

- (1) ±1秒を越える時間規定違反については、各審査員の点数から5点ずつ減点する。
- (2) 提出原稿の不備等については、大会中に大会本部で確認し、出場者に直接指導を行う場合がある。この指導を受けたこと自体は、全道大会での点数には影響しないものとする。
- (3) その他の規定違反等への対処については、大会本部で審議し決定する。

6. 朗読部門全国大会参加手続き

- (1) 全国大会参加料1名につき**5,000円**は、全道大会第4日目の全国大会参加手続き時に納入する。
- (2) 手続きの詳細については、全道大会第4日目の全国大会参加手続きの際に連絡する。

【3】ラジオドキュメント部門

番組制作にあたっては必ずWebサイトの「番組部門制作関連資料」を見て、必要な権利処理を済ませて提出すること。

1. ラジオドキュメント部門規定

- (1) 高校生活や地域社会とのかかわりの中に広く素材を求め、ラジオの特性を生かして制作された、高校生としての視点を大切にしたい、独創的な作品であること。
- (2) 様式規定に従った番組進行表を作成する。
- (3) 作品は、**6分30秒以上7分以内**でまとめる。作品の最後には「制作は〇〇高等学校（放送局・部・委員会等）でした。」というクレジットコールを入れる。**クレジットコールには、クレジットコール以外の音声は入れない。また、作品の前後に2秒程度のブランク（無音）を入れること。**作品の計時は、最初の音からクレジットコールの終わり（…でした）までとする。
- (4) 作品データは、**音声ファイルMP3形式で提出**する。

*制作にあたっての注意

審査は公開で行われること、参加作品をNHKの地域放送や特集番組などで放送したり、イベントやWebサイト、印刷物に利用したりすることがあるので、制作にあたっては、番組に登場する著作物の権利者に利用のための許諾を得ること。

- (5) **作品の再生操作は部門担当者が行うが、音量調整は参加校の代表者自身が行う。**
- (6) **作品は事前に、タイム違反がないかなどをチェックしておく。**

2. ラジオドキュメント部門審査基準

- (1) 研究主題「私たち高校生と放送」のテーマに沿った、高校生に向けた内容であること。
- (2) 審査の視点
 - a. 企画・内容
 - (ア) 「私たち高校生と放送」という統一テーマを理解し、学校をとりまく素材の中から適切なものを求め、効果的に表現しているか。
 - (イ) ラジオの特性を活かした作品になっているか。
 - b. 制作技術
 - (ア) 構成・演出
 - (イ) 取材の方法や努力
 - (ウ) ナレーション
 - (エ) 技術
 - ・録音の技術
 - ・編集の技術
 - ・音楽や効果音の使い方など
- (3) 点数は100点法の1点刻みとし、a. bの項に留意して総合的に採点する。

3. ラジオドキュメント部門規定違反

- (1) ±1秒を越える時間規定違反については、各審査員の点数から5点ずつ減点する。
- (2) 著作権処理の不備、番組進行表の不備等については、大会中に大会本部で確認し、出場者に直接指導を行う場合がある。
- (3) その他の規定違反等への対処については、大会本部で審議し決定する。

4. ラジオドキュメント部門様式規定

- (1) 番組進行表

ダウンロードした様式2-1、2-2、2-3、2-4、2-5、その他必要な書類を綴じたものを番組進行表と呼ぶ。次の表の規定に従った様式をコンテストのWebサイトより**第71回大会のものを**ダウンロードして、必要事項を記入する。**A4判**でプリントアウトしたものを左上で綴じた**3部**と番組進行表の表紙・制作意図・スタッフのページ**7部**を**大会第1日目の公開抽選の際に提出する。**(両面印刷はしない)
- (2) **作品データの提出**
作品を記録したMP3データは6月4日(火)17時まで提出すること。提出後の変更は認めない。(提出方法は別紙で用意する)

番組進行表について

(表中の◎の内容は必ず添付する)

◎①表紙 制作意図 スタッフ 確認欄 (様式2-1)	全国大会ではプログラムに掲載できるタイトルは全角15文字まで。 標準フォントにない記号は使わない。 制作意図は200字程度にまとめる。
◎②CUEシート (様式2-2)	作品に使用した著作物(様式2-3の著作物一覧表に記入したもの)がどこでどのように使用されていたのかが一目でわかるように記入する。

◎③権利処理一覧表 (様式2-3)	作品に使用した著作物(音楽・効果音・新聞・書籍・美術品・写真・パソコンソフトおよびデータなど)と 権利処理内容 (取材場所・施設・イベント・主催者など)を すべて一覧表に記載する。 これらは 著作権処理が不要のものであっても必ず記載する。 また著作物を使用しない場合には、表中に大きく「なし」と記載する。
----------------------	---

以下④～⑧は必要に応じて添付しなければならない

④日本レコード協会の許諾証	日本レコード協会のWebサイトで申請し、発行される許諾証を必ず添付する。(詳しくはP16～P21参照)
⑤音源使用許諾申請書 音源使用申請に対する回答書 (様式2-4)	著作権隣接権がレコード会社にある音源を使用した場合 には必ず添付する。 様式2-4を使用しない場合は、使用を許諾された内容が記載された文書のコピーを必ず添付する。
⑥著作権者からの使用許諾書のコピー	JASRAC 管理の楽曲を使用した場合は、JASRACの録音利用許諾書のコピーを必ず添付する。それ以外の楽曲の場合は、使用を認められた内容が記載された文書のコピーを必ず添付する。
⑦著作権フリー素材関連書類	著作権フリー素材を使用する場合、 素材のタイトル(曲名)が記された部分のコピーおよび使用条件が記載された文面(使用条件の記載箇所はジャケットとは限らないので注意)のコピーを必ず添付する。
⑧音源以外の著作物の使用、取材の許諾など (様式2-5)	取材にあたって許諾を必要とする場合は様式2-5を添付する。写真、画像等の著作物を使用する場合は必ず許諾をとること。

※北海道高文連のサウンドバンククラブの音源を使用する場合には、毎年配布されるサウンドバンククラブのフリー使用条件を示した書類のコピーを添付する。

*「ご協力のお願ひ」は添付しないこと

5. ラジオドキュメント部門全国大会参加手続き

- (1) 全国大会参加料**8,000円**は、全道大会第4日目の全国大会参加手続き時に納入する。
- (2) 詳細については、全道大会第4日目の全国大会参加手続きの際に連絡する。

◆補足

①取材の留意点

- ・取材をする場合は、コメントやインタビューの音声・映像が番組に使われること、大会の会場で公開されること、全国上位に入賞した場合に、ラジオで放送される可能性があることについて、許諾を得ること。文書での許諾が必要な場合は様式2-5を使用。(文書の添付は不要)
- ・取材先には、全道入賞した場合、NHK札幌放送局のサイトでネット配信されることについて、可否の確認しておくこと。ネット配信が拒否されても、番組に使うこ

とが許諾されていれば、その取材は番組に使うて良い。

- ②「NHKクリエイティブ・ライブラリー」に映像・音声素材がネットで無料提供されている。この素材は、「利用のルール」を守ることを条件に、Nコンについては使用許諾なく使用できる。（「使用著作物一覧には明記のこと。」）

https://hosokyoiku.jp/ncon_h/info/

「番組制作関連資料」をダウンロードしてください



【4】テレビドキュメント部門

番組制作にあたっては必ずWebサイトの「**番組部門制作関連資料**」を見て、必要な権利処理を済ませて提出すること。

1. テレビドキュメント部門参加規定

- (1) 高校生活や地域社会とのかかわりの中に広く素材を求め、テレビの特性を生かして制作された、高校生としての視点を大切に、独自の作品であること。テレビ放送番組等の再録を主体としたものは認めない。
- (2) 様式規定に従った番組進行表を作成する。
- (3) 作品は、**7分30秒以上8分以内**でまとめる。
作品の最後には「制作〇〇高校（放送局・部・委員会等）」のクレジットタイトルを入れる。様式3のテストパターンを**作品の最後に5秒ずつ録画する。**様式3のテストパターンは、全国大会のWebサイトよりダウンロードする。テストパターンを改変してはいけない。テストパターンにBGMが入ってはいけない。計時は、初めのテストパターンの終了時から、終わりのテストパターンの始まりまでとする。
- (4) テレビ放送番組などの再録を主体としたものは認めない。
- (5) **作品は次の形式で提出する。**
MP4形式（NTSC規格、アスペクト比16:9、H.264コーデック、HD画質以下【解像度1080[1920×1080]以下】）SD画質も可。

*制作にあたっての注意

審査は公開で行われること、参加作品をNHKの地域放送や特集番組などで放送したり、イベントやWebサイト、印刷物に利用したりすることがあるので、制作にあたっては、番組に登場する著作物の権利者に利用のための許諾得ること。

- (6) **作品の再生操作は部門担当者が行うが、音量調整は参加校の代表者自身が行う。**
- (7) 作品は事前に、**タイム違反がないかなどをチェックしておく。**

2. テレビドキュメント部門審査基準

- (1) 研究主題「私たち高校生と放送」のテーマに沿った、高校生に向けた内容であること。
- (2) 審査の視点
 - a. 企画・内容
 - (ア) 「私たち高校生と放送」という統一テーマ

を理解し、学校をとりまく素材の中から適切なものを求め、効果的に表現しているか。

- (イ) テレビの特性を活かした作品になっているか。

b. 制作技術

- (ア) 構成・演出
- (イ) 取材の方法や努力
- (ウ) ナレーション
- (エ) 技術
 - ・撮影・録音の技術
 - ・編集の技術
 - ・音楽や効果音の使い方 など

- (3) 点数は100点法の1点刻みとし、a. bの項に留意して総合的に採点する。

3. テレビドキュメント部門規定違反

- (1) ±1秒を越える時間規定違反については、各審査員の点数から5点ずつ減点する。
- (2) 著作権処理の不備、番組進行表の不備等については、大会中に大会本部で確認し、出場者に直接指導を行う場合がある。
- (3) その他の規定違反等への対処については、大会本部で審議し決定する。

4. テレビドキュメント部門様式規定

- (1) 番組進行表
ダウンロードした様式2-1、2-2、2-3、2-4、2-5、その他必要な書類を綴じたものを番組進行表と呼ぶ。次の表の規定に従った様式をコンテストのWebサイトより**第71回大会のもの**をダウンロードして、必要事項を記入する。**A4判でプリントアウトしたものを左上で綴じた3部と番組進行表の表紙・制作意図・スタッフのページ7部を大会第1日目の公開抽選の際に提出する。**（両面印刷はしない）
- (2) テストパターン（様式3）
指定のテストパターンを改変せず使用する。**テストパターンはコンテストのWebサイトから第71回大会のもの**をダウンロードすること。
- (3) 作品データの提出
作品を記録したMP4データは**6月4日（火）17時まで**に提出すること。**提出後の変更は認めない。**（提出方法は別紙で用意する）

番組進行表について

（表中の◎の内容は必ず添付する）

◎①表紙 制作意図 スタッフ 確認欄 （様式2-1）	全国大会ではプログラムに掲載できるタイトルは全角15文字まで。 標準フォントにない記号は使わない。 制作意図は200字程度にまとめる。
◎②CUEシート （様式2-2）	作品に使用した著作物（様式2-3の著作物一覧表に記入したもの）がどこでどのように使用されていたのかが一目でわかるように記入する。
◎③権利処理一覧表	作品に使用した著作物（音

(様式2-3)	楽・効果音・新聞・書籍・美術品・写真・パソコンソフトおよびデータなど)と 権利処理内容 (取材場所・施設・イベント・主催者など)をすべて一覧表に記載する。これらは著作権処理が不要のものであっても必ず記載する。また著作物を使用しない場合には、表中に大きく「なし」と記載する。
---------	---

以下④～⑧は必要に応じて添付しなければならない

④日本レコード協会の許諾証	日本レコード協会のWebサイトで申請し、発行される許諾証を必ず添付する。(詳しくはP16～P21参照)
⑤音源使用許諾申請書 音源使用申請に対する回答書 (様式2-4)	著作権隣接権がレコード会社にある音源を使用した場合には必ず添付する。様式2-4を使用しない場合は、使用を許諾された内容が記載された文書のコピーを必ず添付する。
⑥著作権者からの使用許諾書のコピー	JASRAC 管理の楽曲を使用した場合は、JASRACの録音利用許諾書のコピーを必ず添付する。それ以外の楽曲の場合は、使用を認められた内容が記載された文書のコピーを必ず添付する。
⑦著作権フリー素材関連書類	著作権フリー素材を使用する場合、素材のタイトル(曲名)が記された部分のコピーおよび使用条件が記載された文面(使用条件の記載箇所はジャケットとは限らないので注意)のコピーを必ず添付する。

※北海道高文連のサウンドバンククラブの音源を使用する場合には、毎年配布されるサウンドバンククラブのフリー使用条件を示した書類のコピーを添付する。

⑧音源以外の著作物の使用、取材の許諾など (様式2-5)	取材にあたって許諾を必要とする場合は様式2-5を添付する。写真、画像などの著作物を使用する場合は必ず許諾をとること。
---------------------------------	--

*「ご協力のお願ひ」は添付しないこと。

5. テレビドキュメント部門全国大会参加手続き

- (1) 全国大会参加料8,000円は、全道大会第4日目の全国大会参加手続き時に納入する。
- (2) 詳細については、全道大会第4日目の全国大会参加手続きの際に連絡する。

◆補足

①取材の留意点

- ・取材をする場合は、コメントやインタビューの音声・映像が番組に使われること、大会の会場で公開されること、全国上位に入賞した場合に、テレビで放送される可能性があることについて、許諾を得ること。文書での許諾が必要な場合は様式2-5を使用。(文書の添付は不要)
- ・取材先には、全道入賞した場合、NHK札幌放送局のサイトでネット配信されることについて、可否の確認しておくこと。ネット配信が拒否されても、番組に使うことが許諾されていれば、その取材は番組に使って良い。

②「NHKクリエイティブ・ライブラリー」に映像・音声

素材がネットで無料提供されている。この素材は、「利用のルール」を守ることを条件に、Nコンについては使用許諾なく使用できる。(「使用著作物一覧」には明記のこと。)

https://hosokyoiku.jp/ncon_h/info/

「番組制作関連資料」をダウンロードしてください



【5】創作ラジオドラマ部門

番組制作にあたっては必ずWebサイトの「番組部門制作関連資料」を見て、必要な権利処理を済ませて提出すること。

1. 創作ラジオドラマ部門参加規定

- (1) 脚本は参加資格を有する自校生徒のオリジナル作品であること。文芸作品などからの脚色や改作は認めない。
- (2) 様式規定に従った番組進行表を作成する。
- (3) 作品は、8分以内でまとめる。作品の最後には「制作は〇〇高等学校(放送局・部・委員会等)でした。」というクレジットコールを入れる。クレジットコールには、クレジットコール以外の音声は入れない。また、作品の前後に2秒程度のブランク(無音)を入れること。作品の計時は、最初の音からクレジットコールの終わり(…でした)までとする。
- (4) 出演者は、自校生徒に限る。ただし、中高一貫校については、高校生に該当する学年の生徒に限る。
- (5) 作品データは、音声ファイルMP3形式で提出する。

*制作にあたっての注意

審査は公開で行われること、参加作品をNHKの地域放送や特集番組などで放送したり、イベントやWebサイト、印刷物に利用したりすることがあるので、制作にあたっては、番組に登場する著作物の権利者に利用のための許諾を得ること。

- (6) 作品の再生操作は部門担当者が行うが、音量調整は参加校の代表者自身が行う。
- (7) 作品は事前に、タイム違反がないかなどをチェックしておく。

2. 創作ラジオドラマ部門審査基準

- (1) 研究主題「私たち高校生と放送」のテーマに沿った、高校生に向けた内容であること。
- (2) 審査の視点
 - a. 企画・内容
 - (ア) 原作・脚本・演出などにオリジナリティがあるか。
 - (イ) ラジオの特性を活かした作品になっているか。
 - b. 制作技術
 - (ア) 構成・演出

(イ) 取材の方法や努力

(ウ) 演技

(エ) 技術

・録音の技術

・編集の技術

・音楽や効果音の使い方 など

(3) 点数は100点法の1点刻みとし、a. bの項に留意して総合的に採点する。

3. 創作ラジオドラマ部門規定違反

(1) ±1秒を越える時間規定違反については、各審査員の点数から5点ずつ減点する。

(2) 著作権処理の不備、番組進行表の不備等については、大会中に大会本部で確認し、出場者に直接指導を行う場合がある。

(3) その他の規定違反等への対処については、大会本部で審議し決定する。

4. 創作ラジオドラマ部門様式規定

(1) 番組進行表

ダウンロードした様式2-1、2-2、2-3、2-4、2-5、その他必要な書類を綴じたものを番組進行表と呼ぶ。次の表の規定に従った様式をコンテストのWebサイトより**第71回大会のもの**をダウンロードして、必要事項を記入する。**A4判**でプリントアウトしたものを左上で綴じた**3部**と番組進行表の表紙・制作意図・スタッフのページ**7部**を**大会第1日目の公開抽選の際に提出する**。(両面印刷はしない)

(2) **作品データの提出**

作品を記録したMP3データは6月4日(火)17時までに提出すること。提出後の変更は認めない。(提出方法は別紙で用意する)

番組進行表について

(表中の◎の内容は必ず添付する)

◎①表紙 制作意図 あらすじ スタッフ・ キャスト 確認欄 (様式2-1)	全国大会ではプログラムに掲載できるタイトルは全角15文字まで。 標準フォントにない記号は使わない 。制作意図は200字程度にまとめる。あらすじは結末まで入れて400字程度のまとめる。
◎②CUEシート (様式2-2)	作品に使用した著作物(様式2-3の著作物一覧表に記入したもの)がどこでどのように使用されていたのかが一目でわかるように記入する。
◎③権利処理一覧表 (様式2-3)	作品に使用した著作物(音楽・効果音・新聞・書籍・美術品・写真・パソコンソフトおよびデータなど)と 権利処理内容 (取材場所・施設・イベント・主催者など)を すべて一覧表に記載する 。これらは 著作権処理が不要のものであっても必ず記載する 。また 著作物を使用しない場合には、表中に大きく「なし」と記載する 。

以下④～⑧は必要に応じて添付しなければならない

④日本レコード協会からの許諾証	日本レコード協会のWebサイトで申請し、発行される許諾証を必ず添付する。(詳しくはP16～P21参照)
⑤音源使用許諾申請書 音源使用許諾申請に対する回答書 (様式2-4)	著作権隣接権がレコード会社にある音源を使用した場合には必ず添付する。様式2-4を使用しない場合は、使用を許諾された内容が記載された文書のコピーを必ず添付する。
⑥著作権者からの使用許諾書のコピー	JASRAC 管理の楽曲を使用した場合は、JASRACの録音利用許諾書のコピーを必ず添付する。それ以外の楽曲の場合は、使用を認められた内容が記載された文書のコピーを必ず添付する。
⑦著作権フリー素材関連書類	著作権フリー素材を使用する場合、素材のタイトル(曲名)が記載された部分のコピーおよび使用条件が記載された文面(使用条件の記載箇所はジャケットとは限らないので注意)のコピーを必ず添付する。

※北海道高文連のサウンドバンククラブの音源を使用する場合には、毎年配布されるサウンドバンククラブのフリー使用条件を示した書類のコピーを添付する。

⑧音源以外の著作物の使用、取材の許諾など (様式2-5)	取材にあたっての許諾を必要とする場合は様式2-5を添付する。写真、画像等の著作物を使用する場合は必ず許諾をとること。
---------------------------------	--

*「ご協力のお願ひ」は添付しないこと。

※ラジオでの新聞・書籍の引用について

コンテスト委員会では、新聞・書籍等についてのラジオ番組の中での引用については、資料名をはっきりとコールし(作品と引用物の主従が逆転しないなど)引用とはっきりわかるようにすれば、許諾手続きは不要としている。しかし、新聞社によっては、引用でも許諾手続きを求める会社もあるため、ホームページ等で確認が必要。その場合、手続きにより入手した許諾書類を台本に添付すること。

5. 創作ラジオドラマ部門全国大会参加手続き

- (1) 全国大会参加料**8,000円**は、全道大会第4日目の全国大会参加手続き時に納入する。
- (2) 詳細については、全道大会第4日目の全国大会参加手続きの際に連絡する。

◆補足

①取材の留意点

- ・取材をする場合は、コメントやインタビューの音声・映像が番組に使われること、大会の会場で公開されること、全国上位に入賞した場合に、ラジオで放送される可能性があることについて、許諾を得ること。文書での許諾が必要な場合は様式2-5を使用。(文書の添付は不要)

- ・取材先には、全道入賞した場合、NHK札幌放送局のサイトでネット配信されることについて、可否の確認しておくこと。ネット配信が拒否されても、番組に使うことが許諾されていれば、その取材は番組に使って良い。

- ②「NHKクリエイティブ・ライブラリー」に映像・音声素材がネットで無料提供されている。この素材は、「利用のルール」を守ることを条件に、Nコンについては使用許諾なく使用できる。（「使用著作物一覧には明記のこと。」
https://hosokyoiku.jp/ncon_h/info/
「番組制作関連資料」をダウンロードしてください



【6】創作テレビドラマ部門

番組制作にあたっては必ずWebサイトの「**番組部門制作関連資料**」を見て、必要な権利処理を済ませて提出すること。

1. 創作テレビドラマ部門参加規定

- (1) 脚本は参加資格を有する自校生徒のオリジナル作品であること。**文芸作品などからの脚色や改作は認めない。**
- (2) 様式規定に従った番組進行表を作成する。
- (3) 作品は、**8分以内**でまとめる。**作品の最後には「制作〇〇高校（放送局・部・委員会等）」のクレジットタイトルを入れる。**様式3のテストパターンを**作品の前後に5秒ずつ**録画する。様式3のテストパターンは、全国大会のWebサイトよりダウンロードする。テストパターンは改変してはいけない。テストパターンにBGMが入ってはいけない。計時は、初めのテストパターンの終了時から、終わりのテストパターンの始まりまでとする。
- (4) **出演者は、自校生徒に限る。**ただし、中高一貫校については、高校生に該当する学年の生徒に限る。
- (5) **作品は次の形式で提出する。**
MP4形式（NTSC規格、アスペクト比16:9、H.264コーデック、HD画質以下【解像度1080[1920×1080]以下】）SD画質も可。

*制作にあたっての注意

審査は公開で行われること、参加作品をNHKの地域放送や特集番組などで放送したり、イベントやWebサイト、印刷物に利用したりするので、制作にあたっては、番組に登場する著作物の権利者に利用のための許諾を得ること。

- (6) **作品の再生操作は部門担当者が行うが、音量調整は参加校の代表者自身が行う。**
- (7) 作品は事前に、**タイム違反がないかなどをチェックしておく。**

2. 創作テレビドラマ部門審査基準

- (1) 研究主題「私たち高校生と放送」のテーマに沿った、高校生に向けた内容であること。
- (2) 審査の視点
 - a. 企画・内容
 - (ア) 原作・脚本・演出などにオリジナリティがあるか。
 - (イ) テレビの特性を活かした作品になっている

か。

b. 制作技術

- (ア) 構成・演出
- (イ) 取材の方法や努力
- (ウ) 演技
- (エ) 技術
 - ・撮影・録音の技術
 - ・編集の技術
 - ・音楽や効果音の使い方 など

- (3) 点数は100点法の1点刻みとし、a. bの項に留意して総合的に採点する。

3. 創作テレビドラマ部門規定違反

- (1) ±1秒を越える時間規定違反については、各審査員の点数から5点ずつ減点する。
- (2) 著作権処理の不備、番組進行表の不備等については、大会中に大会本部で確認し、出場者に直接指導を行う場合がある。
- (3) その他の規定違反等への対処については、大会本部で審議し決定する。

4. 創作テレビドラマ部門番組様式規定

- (1) 番組進行表
ダウンロードした様式2-1、2-2、2-3、2-4、2-5、その他必要な書類を綴じたものを番組進行表と呼ぶ。次の表の規定に従った様式をコンテストのWebサイトより**第71回大会のものをダウンロードして、必要事項を記入する。A4判でプリントアウトしたものを左上で綴じた3部と番組進行表の表紙・制作意図・スタッフのページ7部を大会第1日目の公開抽選の際に提出する。**（両面印刷はしない）
- (2) テストパターン（様式3）
指定のテストパターンを改変せず使用する。**テストパターンは、コンテストのWebサイトから第71回大会のものをダウンロードすること。**
- (3) 作品データの提出
作品を記録したMP4データは6月4日（火）17時まで提出すること。提出後の変更は認めない。（提出方法は別紙で用意する）

番組進行表について

（表中の◎の内容は必ず添付する）

◎①表紙 制作意図 あらすじ スタッフ・ キャスト 確認欄 （様式2-1）	全国大会ではプログラムに掲載できるタイトルは全角15文字まで。 標準フォントにない記号は使わない。 制作意図は200字程度にまとめる。あらすじは結末まで入れて400字程度のまとめる。
◎②CUEシート （様式2-2）	作品に使用した著作物（様式2-3の著作物一覧表に記入したもの）がどこでどのように使用されていたのかが一目でわかるように記入する。
◎③権利処理一覧表 （様式2-3）	作品に使用した著作物（音楽・効果音・新聞・書籍・美術品・写真・パソコンソフトおよびデータなど）と 権利処理内

	容（取材場所・施設・イベント・主催者など）をすべて一覧表に記載する。これらは著作権処理が不要のものであっても必ず記載する。また著作物を使用しない場合には、表中に大きく「なし」と記載する。
--	---

以下④～⑧は必要に応じて添付しなければならない

④日本レコード協会の許諾証	日本レコード協会のWebサイトで申請し、発行される許諾証を必ず添付する。（詳しくはP16～P21参照）
⑤音源使用許諾申請書 音源使用申請に対する回答書 （様式2-4）	著作権隣接権がレコード会社にある音源を使用した場合には必ず添付する。様式2-4を使用しない場合は、使用を許諾された内容が記載された文書のコピーを必ず添付する。
⑥著作権者からの使用許諾書のコピー	JASRAC 管理の楽曲を使用した場合は、JASRACの録音利用許諾書のコピーを必ず添付する。それ以外の楽曲の場合は、使用を認められた内容が記載された文書のコピーを必ず添付する。
⑦著作権フリー素材関連書類	著作権フリー素材を使用する場合、素材のタイトル（曲名）が記された部分のコピーおよび使用条件が記載された文面（使用条件の記載箇所はジャケットとは限らないので注意）のコピーを必ず添付する。

※北海道高文連のサウンドバンククラブの音源を使用する場合には、毎年配布されるサウンドバンククラブのフリー使用条件を示した書類のコピーを添付する。

⑧音源以外の著作物の使用、取材の許諾など （様式2-5）	取材にあたって許諾を必要とする場合は様式2-5を添付する。写真、画像などの著作物を使用する場合は必ず許諾をとること。
---------------------------------	--

*「ご協力をお願い」は添付しないこと。

5. 創作テレビドラマ部門全国大会参加手続き

- (1) 全国大会参加料8,000円は、全道大会第4日目の全国大会参加手続き時に納入する。
- (2) 詳細については、全道大会第4日目の全国大会参加手続きの際に連絡する。

◆補足

①取材の留意点

- ・取材をする場合は、コメントやインタビューの音声・映像が番組に使われること、大会の会場で公開されること、全国上位に入賞した場合に、テレビで放送される可能性があることについて、許諾を得ること。文書での許諾が必要な場合は様式2-5を使用。（文書の添付は不要）
- ・取材先には、全道入賞した場合、NHK札幌放送局のサイトでネット配信されることについて、可否の確認しておくこと。ネット配信が拒否されても、番組に使うことが許諾されていれば、その取材は番組に使って良い。

- ②「NHKクリエイティブ・ライブラリー」に映像・音声素材がネットで無料提供されている。この素材は、「利用のルール」を守ることが条件に、Nコンについては使用許諾なく使用できる。（「使用著作物一覧」には明記の

こと。」

https://hosokyoiku.jp/ncon_h/info/

「番組制作関連資料」をダウンロードしてください



【7】研究発表部門

1. 研究発表部門目的

日常の校内放送活動の中から、問題解決の努力または技術的な創意工夫などを発表する機会を設け、各学校が持つ諸問題を共有し、共に解決することを目的とする。

2. 研究発表部門発表について

- (1) 発表内容は、校内放送に関するものに限る。
（校内放送の技術、機材、アナウンス・朗読の技術、番組の制作や編集の技術、部活動・委員会活動の運営方法など）。コンテストにエントリーしている関連の内容、または類似の内容であってはいけない。本年度のコンテスト参加作品の上映は、たとえ一部であっても一切認めない。なお、メーカー名、商品名の写り込みを避け、特定の製品のPRも避けること。
- (2) 発表は、PowerPointを使用したスクリーン1面によるプレゼンテーションとする。発表時間は機材調整を含め8分以内とし、発表者は機械操作も含めて3人までとする。録音・録画を主体とする発表は認めない。
- (3) PowerPointのデータ容量は200MB以内とする。**誤作動などを防ぐためにスライド画面の切り替え効果とアニメーションの使用は禁止する。ただし、音声や動画の挿入はアニメーションとはみなさない。**
- (4) 会場には、以下の発表機器を用意する。
 - ・ノートパソコン（Windows10 or 11）1台
PowerPoint2019 or 2021
 - ・マイク2本
 - ・電気スタンド
 - ・レーザーポインター

※ 発表用PowerPointのデータ容量制限が30MBから200MBに変更になります。

※ 発表時に利用する音声データや映像データはすべてPowerPointに挿入してください。アニメーション機能は禁止ですが、データを挿入する際、場合によってはアニメーション機能が必要となるようです。この場合に限り、PowerPointのアニメーション機能を認めます。（それ以外は禁止です）

3. 研究発表部門審査基準

- (1) 研究発表部門は、発表の技術を競うものではなく、問題解決の結論を重視するものである。審査についてはその視点に立ち、発表全体を総

合的に評価する。

(2) 点数は100点法の1点刻みとする。

4. 発表の進行について

(1) 発表会場では研究した大きな作品を組み立てたり設置したり展示したりすることは、時間とスペースがないのでできない。発表時間内であれば、印刷物の配布や、両手で掲げることのできる大きさのものの提示をしてもかまわない。

(2) 持ち込んだ機材を、会場設備に接続してはならない。準備された機器のみで発表すること。

※ 発表時、PCはオフラインでの操作となるため外部のWebサイトへのリンクはできません。

5. 研究発表部門番組進行表規定

発表は公開を前提としているので、番組進行表(3部)を提出する。著作権処理が必要なもの(BGM、写真など)については、番組部門と同様の処理を行うこと。(様式2-1(開発用)、2-2、2-3、必要に応じて2-4、2-5を提出) 番組進行表の様式は全国大会のサイトよりダウンロードする。

※ 研究発表の番組進行表の記入について

北海道大会では

「制作物など展示を 希望する・希望しない」

の部分への記入は必要ありません。

6. 研究発表部門規定違反

- (1) +10秒を越える時間規定違反については、各審査員の点数から5点ずつ減点する。
- (2) 著作権処理の不備、番組進行表の不備等については、大会中に大会本部で確認し、出場者に直接指導を行う場合がある。
- (3) その他の規定違反等への対処については、大会本部で審議し決定する。

7. 研究発表部門全国大会参加手続き

- (1) 全国大会参加料4,000円は、全道大会第4日目の全国大会参加手続き時に納入する。
- (2) 詳細については、全道大会第4日目の全国大会参加手続きの際に連絡する。

【8】データ提出について

1. 提出期日

令和6年6月4日(火) 17:00まで

2. 提出方法

Webサービスを利用する。詳しくは、別紙で留意し参加校にメールで連絡します。

※支部代表専門委員は参加申込書に全道大会参加校顧問への連絡用メールアドレスを忘れずに記入してください。

【9】抽選会に参加できない場合

アナウンス・朗読の原稿、ラジオ番組・テレビ番組の番組進行表、研究発表の研究要旨・番組進行表を大会初日に提出できない場合は、事務局(札幌平岸 足達)へ連絡の上、6月4日(火)までに当番校(札幌北高校)へ提出する。

番組制作について（詳細は全国大会の「番組部門制作関連資料」参照）

https://hosokyoiku.jp/ncon_h/

重要な内容です、必ずお読みください。（全国大会要項より）

番組制作は、著作物の創造です。制作者であるみなさんは、自分の著作物を勝手に使用されたり改変されたりしない権利を有しています。制作にあたって他者の権利を尊重し、著作権や肖像権等を守るのは、自分の権利を守るのと同じことです。制作者・情報発信者であるみなさんは、企画の段階からこの点に配慮し、必要な手続きをとって、取材や制作を進めてください。

☆公開のための手続きを必ず行ってください！

参加規程にある通り「放送コンテスト」ですので、放送（公開）することを前提としています。参加作品をNHKの地域放送や特集番組、Webサイトなどで公開したり、イベントや印刷物等に使用したりすることがあります。下記の「権利処理について」を参照し、これらの手続きを行ってください。コンテストでは円滑な作品発表を期すために上記の事項が既処理であることを確認の上運営する必要があります。作品提出時に、これらが既処理であることを示す書類も一緒に提出してください。**手続きが行われていない場合、審査・公開できないことがあります。**

☆権利処理について

1. 著作権

映像や画像、音楽、書籍など、自分以外の人が創作したものを素材として使用する場合

- (1) オリジナルを作った人の許諾が必要です。
- (2) 大きく映り込んだ登録商標についても使用の可否を確認する必要があります。

2. 肖像権

他の人の顔や姿などを当該人物だと確認できる状態で使用する場合

- (1) 基本的にその人（または保護者や管理者、等）の許諾が必要です。本人の事情等で作品中への映り込みが問題となってしまう場合もあります。特に学童など本人が映り込みの可否を判断できない場合は、保護者や管理者の許諾を確実に得てください。
- (2) 肖像権ではありませんが、他人の敷地内や施設内で無断で取材を行うなど、他人の権利を侵害することがあってはいけません。自校の行事等であっても、主催者（多くは学校長）の許諾が必要です。

3. その他（コンテストで発表して支障がないか）

著作権や肖像権に該当していなくても、誰かを誹謗中傷するものや残酷な内容、著しく反社会的な内容などはコンテストへの出品内容としては適当ではありません。

☆手続きには時間がかかります

取材や著作物使用に関するすべての手続きは、**都道府県コンテスト（または都道府県が指示する地区コンテスト）までに完了してください。**

書類提出締切直前に著作物の使用許諾を申請することは、関係機関に多大な迷惑をかけ、コンテストに関わる全作品の許諾に支障が出る恐れもあります。まず、関係機関のWebサイトで手続きについて確認し、十分な余裕を持って申請を行ってください。許諾書が間に合わない場合も、審査・公開できないことがあります。

☆手続きの方法について

「様式2-1」から「様式2-5」で番組進行表を作成し、手続きを行ってください。記入例や記入上の注意などは、当コンテストのWebサイト（https://hosokyoiku.jp/ncon_h/info/）で「**番組部門制作関連資料**」をダウンロードしてください。

*** 提出書類は必ず今年度の様式のをダウンロードして確認してください ***